

## 医学部

I	教育の水準	.....	教育 3-2
II	質の向上度	.....	教育 3-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 医学科では、平成 23 年度から学生専用の基礎医学実験室「Student Lab」システムを運用している。保健学科では、平成 26 年度から外国人教員（教授）1 名を採用し、海外での就職や留学に向け、国際的な広い視野を持ち、必要な知識が修得できるよう指導を行っており、海外留学者数は平成 22 年度の 9 名から平成 27 年度の 30 名へ増加している。
- 平成 22 年度に総合診療医学分野、医療教育学部分野を設置し、医療面接、採血等のシミュレーション教育、実地での採血実習及び指導者講習会を実施している。また、学生満足度調査結果を教授会等にフィードバックし改善に取り組んでおり、学生の満足度（100 点満点）について平成 21 年度終了分と平成 27 年度終了分を比較すると、臨床実習における地域医療学（総合診療医学分野担当）は 78.6 点から 84.1 点、臨床実習は 77.2 点から 81.4 点へそれぞれ増加している。
- 医療教育学分野が中心となり、系統別病態診断について学生が評価できるシステムを構築し、評価結果のフィードバックや PBL チュートリアルをテーマとしたファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施するなど、問題基盤学習（PBL）のシナリオ作成やチューターの活動について改善を図っている。その結果、学生の自己評価に向上が見られ、医学科 4 年次生の PBL チュートリアル学生アンケート調査で肯定的回答をした割合は、「WEB 版日程表による予習」では、平成 21 年度の 10%未満から平成 27 年度の 80%程度へ上昇している。また、知識、考える力等 6 項目では、平成 21 年度の 50%程度から平成 27 年度の 80%程度へ上昇している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 講義の満足度調査における肯定的回答の割合について、平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、医学科は 70%程度から 80%程度、医科栄養学科は 80%程度から 90%程度、看護学専攻は 70%程度から 90%程度、放射線技術科学専攻は 70%程度から 80%程度、検査技術科学専攻は 75%程度から 80%程度となっている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の国家試験合格率について、医師（新卒）は91.4%から96.6%、管理栄養士は80%程度から100%、看護師は97%から100%、保健師は92.5%から100%、診療放射線技師は80.6%から97.4%、臨床検査技師は88.2%から100%の間を推移しており、助産師はおおむね100%となっている。
- 第2期中期目標期間における医学科の学生の論文発表件数は14件から30件、受賞件数は0件から8件の間を推移している。
- 第2期中期目標期間に、7名の学生が大学院博士課程のMD-PhDコースへ進学している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の栄養学科卒業生の就職率は94.5%となっており、約半数は民間企業や病院、行政機関等へ就職している。また、大学院進学を希望する卒業生は、全員が希望先の大学院へ進学している。保健学科の就職希望者の就職率は99.4%となっており、主に徳島県をはじめとした四国、中国地方の医療機関に就職している。また、卒業生の14.7%は大学院進学を希望し、全員が進学している。
- 平成27年度に実施した医学科卒業生の就職先へのアンケート調査結果では、卒業生の資質や身に付けている能力（幅広い教養、社会的常識等）について、「大いにそう思う」又は「そう思う」と回答した割合は、全19項目中3項目が90%以上となっている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 医学科では学生や教員との懇談による意見や提案を取り入れ、教育内容の改善等に取り組んでおり、学生の満足度（100点満点）について、平成21年度終了分と平成27年度終了分を比較すると、臨床実習における地域医療学（総合診療医学分野担当）は78.6点から84.1点、臨床実習は77.2点から81.4点へ増加している。
- 医療教育学分野が中心となり、授業評価結果のフィードバックやPBLチュートリアルをテーマとしたFDを開催し、PBLのシナリオ作成やチューターの活動について改善を図っている。医学科4年次生のPBLチュートリアル学生アンケート調査の肯定的回答の割合は、「WEB版日程表による予習」では、平成21年度の10%未満から平成27年度の80%程度、知識、考える力等6項目では、平成21年度の50%程度から平成27年度の80%程度へ上昇している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 医学科学生の研究成果について、平成21年度と平成27年度を比較すると、論文発表件数は10件から19件、受賞件数は4件から7件へ増加している。
- 第2期中期目標期間の国家試験合格率について、医師（新卒）は91.4%から96.6%、管理栄養士は80%程度から100%、看護師は97%から100%、保健師は92.5%から100%、診療放射線技師は80.6%から97.4%、臨床検査技師は88.2%から100%の間を推移している。また、助産師はおおむね100%となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。